



第18回井笠班準備会開かる

日中友好協会倉敷支部 宇野忠義

去る5月14日、井原市出部公民館にて井笠班結成準備会が開催された。参加者は井原市他（鳥越、木尾、三好、沖原、佐藤）、岡山（河井、真田）、倉敷（犬飼、宇野）の9名。

経過報告、岡山・倉敷理事会報告の後 王希奇絵画展「米子展」、6月1日（土）岡山西口：8時発、倉敷北口：8：40発のバス見学旅行について両支部で30名以上の参加を目標として検

討した。

議題では、岡山県連井笠班結成記念講演会について検討した。

テーマ：憲法9条と北東アジアの平和創造

講師：井上正信弁護士（尾道総合法律事務所）

日程：7月21日（日）、14時～ 場所：井原市出部公民館

チラシ作成、宣伝広報、会計、太極拳演舞の交渉、準備と任務分担について検討した。

次に、井笠班結成に関して、その準備としての名簿の作成と仮の任務分担について検討した。井原市、笠岡市、浅口市、里庄町、矢掛町在住の会員に呼びかけて、班結成に向けて相談することとなった。該当する地域の会員のかたの講演会参加を強く呼び掛けます。

犬養毅の対中国観とその行動

2024年5月15日（日）に庭瀬の犬飼木堂記念館で、標記のタイトルでの講演会がありました。

小川さんからの情報で、この講演会を知り、太極拳の坂本さんと3人で出かけました。講師は倉敷芸術科学大学名誉教授の時任英人さんです。会場いっぱいの参加者でした。

犬養毅を研究テーマにすることになったいきさつで、登場するのが孫にあたる緒方貞子さんの話しでした。このあたりで、以前にも同じ話を聞いた記憶がよみがえりました。

8年ほど前に倉敷支部総会の後に、記念講演会が行われていたころのことです。同じ話を聞いた覚えがあります。

“犬養毅は幼少期より漢学の素養に基づき、中国への尊崇の念を持っていたこと。しかし、アヘン戦争のころより、西洋への警戒感が増し、中国への思いが変わる。（アヘンによって毎年30万人もの人が死んでいる、気の毒だ）と書き残している。

1893年には伊藤内閣に対して中国との戦争（日清戦争）を催促する激しい演説をしている。これは犬養個人の政治的野心によるものと思う。

日清戦争後の中国に対しては、「肯定的」かつ未来志向の在り方を提示している。

裏へつづく※

ハレノワで憲法集会

5月3日憲法のつどい岡山実行委員会の主催で「憲法集会」が行われました。岡山合唱団の合唱に続いて、中富公一さんによる特別報告がありました。

日米の軍事同盟は新たな段階に入り、即応体制が作られています。台湾有事を前提に与那国島はじめ宮古、石垣島等南西諸島に自衛隊のミサイル基地が建設され、安保3文書に基づき自衛隊を一元的に指揮する統合作戦司令部の設置をめざし、戦争の危機を外交の力で解決するのではなく、軍事力の増強で対応しようとして大変危険な情勢です。

その後松元ヒロさんによる「憲法くん」が演じられました。麻生太郎のものまねがよかったです。会場入り口で治安維持国陪同盟の国会請願署名も集めました。

河井伸士



あかやま

題字 萩原田 親

No. 1023

2024/6/1

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0053
東京都千代田区浅草橋2-1-5
日中ビル5F
電話 03(5839)2148(F)
FAX 03(5839)2148
http://www.jcfa.or.jp
E-mail:nicchuh@yahoo.co.jp
郵便 00119-1-21176

日中友好協会
岡山支部
〒710-0024
岡山市北区下伊福
西町1-58 民生会館1F
TEL-FAX(086)258-1808

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福成町3261-41
TEL-FAX(086)441-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouthao.iinaa.net/>
メールアドレス
nicchuhokayama@yahoo.co.jp



「葫蘆島在僑大遣返」—葫蘆島からの在満日本人の引き揚げ 1.051.047 人

近現代史研究者 青木康嘉

1. 引き揚げの背景

1946年3月から国共内戦が始まり、5月7日から国民党軍の支配下で日本人引き揚げが始まった。蒋介石の国民党軍を支援する米軍は国民党軍の将兵を華南から葫蘆島へ運んだ。その船で、在留日本人を葫蘆島から博多港や佐世保港へ運び、その船で戦時中日本へ連れて来られていた中国人および他の物資（武器）を中国に運んだ。日本への帰国を許された人は、辿り着いた順に検閲を受けて乗船し、日本の博多港や佐世保港などに向かった。

2. 引き揚げとは

国外退去命令によって、各地（都市部）にある日僑善後連絡処（旧日本人会）に引き揚げを希望したものから連絡待ちで引き揚げることが出来る。リュクサックに日用品と食糧を詰め込み、子供の手を両手に持って、無蓋車に乗る。持ち出し可能金は1000円まで（日本で3か月生活できるほどのお金）だった。約1週間（途中止まる、金品を集めて列車の運転手に渡さないと出発しない）、錦州（当時は錦県といった）の日僑俘収容所に入る。この収容所（北大營）は元東北軍（張学良）兵舎で約3000人が入れる軍馬用厩舎であった。コンクリート庭の上にアンペラー一枚敷きだけの場所であった。板壁上部の空間から雨が吹き込んだ。ここで発疹チフス、感冒（風邪）、下痢、コレラ患者が出ると、普通2週間滞在から約1か月滞在と延期になる。多くの死者は2キロ離れた裏山に埋められた。支給される食事だけで足らなくて中国人が売りに来る不潔な食物をお金を持っている者が買って食べて、コレラや食中毒にあうものもいた。

3. 葫蘆島へ

葫蘆島への移動命令が出ると、午前5時に出発し、午前8時に錦州駅で乗車を完了する。葫蘆島到着に12時到着する。検疫、消毒、荷物検査等を受け、包丁、バケツ、小刀、スプーン、フォーク、万年筆等々を取り上げられる。日没後遣送船にのる。翌日まで埠頭に停泊したまま一泊、翌日午前7時30分出発する。途中船の中で死亡した者は、布にくるまれて海に投げられ、船が汽笛を鳴らして3周回る。4日後博多港か佐世保港へ入港する。沖合より遠望する祖国の山の青々とした風景に涙する。博多港や佐世保港で検疫・消毒（DDTの白い粉を頭からかぶる、発疹チフスの原因シラミを殺すため）、検便、書類等手続き後、4~5日後本土へ上陸、その夜は収容所に一泊して、引き揚げ列車の引き揚げ切符をもらって、故郷に向かう。

4. 引き揚げ後について

引き揚げの遣送船は、日本の巡洋艦「占守」や海防艦があったが、米軍のリバティ船が多かった。下船後、進駐軍にソ連軍の動きを詳しく問われ、説明する場合がある。博多港で旧ソ連軍などに暴行・強姦を受け、妊娠していた女性は二日市保養所で秘密裏に中絶を受けた。

5. 王希可の「1946」米子展を見るにあたって事前学習として読んでください

当時「満洲国」に住んでいたもの155万人、現地や引き揚げまでに死亡した日本人は21.6万人。現在までも、方正の日本人公墓以外に日本人墓地はなく、遺骨は帰っていない。

山田洋次や加藤登紀子やちばてつやは、「この絵の中に私がいる！」と叫んだそうだ。

※

大正時代には、「対華二十一か条要求」を当然視している。一方、第一次大戦中から主張し始めた「産業立国主義」で中国との経済統合を柱の一つとするため、侵略は否定。

昭和時代、犬養毅は天皇の言葉を受けて首相に就任した直後から、中国に対する「肯定的」見方を実現させようと活動したものの、成功しなかった。“

真田紀子



犬飼木堂記念館



講演会の後、館内を見て回りましたが、記憶にあった“血染めの座布団”ありました。

暗殺された当時76歳ということは、ほぼ私と同世代です。



一九四六 米子展

2024年5月31日(金) → 6月4日(火) 10:00~18:00 (最終日は16時まで)

会場 米子市美術館 2階 第4展示室
〒683-0822 鳥取県米子市甲町12番地 Tel.0859-34-2424

入場料 一般 1,200円(前売0,000円)/高校生以下 無料

主催 王希可「一九四六」米子実行委員会

協賛力 日本中国友好協会

特別協力 城西国際大学(千葉県鎌倉市)

後援 中華人民共和国駐大坂総領事館、鳥取県、米子市、境港市、鳥取県教育委員会、米子市教育委員会、米子市文化協議会、(一財)米子市文化財団、平和のための戦争展を成功させる会、BS山陰放送、中国テレビ放送、TSK山陰中央テレビ、日本海テレビ、テレビ朝日鳥取支局、朝日新聞鳥取支局、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社

後援 山田洋次(映画監督・脚本家・演出家)、加藤登紀子(歌手・俳優)、ちばてつや(漫画家)

【お問い合わせ】王希可「一九四六」米子実行委員会 TEL・FAX 0859-32-4868 / 新庄

次回の新聞発送作業は
6月11日(火)午前10時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

真田